

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0191300102), 法人名 (株式会社 ケーサポート), 事業所名 (グループホームヤマブキの家 1階), 所在地 (北広島市中央4丁目7番5号), 自己評価作成日 (令和3年11月1日), 評価結果市町村受理日 (令和4年2月14日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kjh\_on=true&JigyosyoCd=0191300102-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年1月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様には季節を感じ、充実した日々を送って頂きたい。コロナ禍の中でも出来る事を、職員で考え毎月の様にイベントの開催を行っています。春には好例のいちご狩り・ヤマブキの家の誕生会・夏にはバーベキュー・盆踊り・流しそうめん・秋にはハローウィン・敬老会・十五夜・冬にはクリスマス会・忘年会・年明けには・新年会等最近ではそれぞれのイベントごとで仮装が流行テーマごとの仮装で撮影会を行っています。入居者様も生まれご家族様にLINEで様子を報告し、開催している職員も大変な中楽しんでます。入居者様と職員が一体となり楽しめる施設作りを目指しています。コロナが終息し元の環境での活動が出来ようになったら、北広島市社会福祉協議会のお力を借り地域ボランティア団体の方達の協力をお願いし、楽しいイベントを開催させて頂きたいと思っています。ヤマブキの家では、食事にも力を入れており日々職員手作りのお食事や、手作りピザや北広島市内の料理屋さんのお弁当などを味わっております。毎月内容を替えているので入居者様やご家族様も喜ばれています。外出できる環境になったら外食に行く予定です。地域の方達との繋がりを大切にしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ヤマブキの家」は法人の4棟目のグループホームとして開設し6年目を迎えている。北広島市の中心に位置し、JR駅やバス停にも近く、商業店舗や医療機関、文化ホール、幼稚園などが点在し、散歩や買物などで地域と交流し易い環境にある。しかし、このコロナ禍で地域行事の中止が多く、普段の生活が困難な状況にある。感染状況に応じ外出や面会を自粛しているが、家族とはLINEで繋がり、利用者の今の様子を画像で送信、行事写真に手紙を添えて郵送、電話でも暮らしぶりを報告し関係継続に努めている。コロナ禍にあっても毎日が笑いの絶えない事業所を目指し、季節行事、誕生会、月1度開催のヤマブキカフェ、活花教室を始め、日々のレクリエーション活動など、それぞれのイベントに合わせた仮装衣装や十五夜の餅つき、正月の鳥居や絵馬、モグらたきなどの道具も全て職員の手作りで、工夫を凝らし楽しみの機会を創出している。職員も利用者と一緒に表現する楽しさが広がり、豊かな感性が育まれている。食事にも気を配り、職員の手作り料理を中心に、出前やケータリングも取り入れ、多彩なメニューで満ち足りた「食」を体感している。思いの把握が困難な場合も寄り添う介護の中で、顔を見て話しかけ続けることで感情の発露や反応が現れるなど、利用者との触れ合う時間を大切に取り組みを重ねている。其々に終末期の形があるが、初めて看取りを経験し、その時に此処で(事業所)良かったと感じてもらえる、家族に悔いが残らないような介護に努め支援している。職員は常に理念を基盤としたケアのあり方を模索し、日々の業務の中で達成感を感じながら、より力を発揮し、利用者の安心と喜び、楽しみに繋がる時間を共に積み重ねている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff efforts.

## 自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の都度、施設理念を全員で読み上げ確認している。新入職員の職員の入職時には施設理念の説明をし、理解に努めています。	開設時に地域密着型サービスと利用者の尊厳を念頭に置いた理念を策定している。朝礼時の唱和で理念の浸透を図り、利用者本位のケアに生かされている。新人研修では理念の重要性を説き、実践に繋げる環境を作っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中日常的な交流は、ほぼない状態だが、回覧板が届いた時に挨拶をし、隣の方に回覧板を回す時などに挨拶させて頂いている。町内会の総会や掃除・花壇の花植えの回覧があったが、やはりコロナで中止になってしまいました。幼稚園や小学校との交流もして行きたいと思いません。	今年度もコロナ禍の影響で町内会行事は中断しているが、町内会の一員として回覧板が回り、近隣住民とは挨拶を交わしている。利用者家族も地元の方が多く、地域活動の情報を得ながら接点が持てるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の活動に入居者様と参加し地域の方々に活かしていきたいと思えます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は開催中止させて頂きましたが、以前は貴重な意見をサービスの向上に繋げていました。次回開催出来る環境になったら入居者様も出席して頂く予定です。	例年の運営推進会議は市職員、包括支援センター職員、町内会役員、家族の協力を得て開催しているが、今年度はコロナ禍で開催中止の報告を送付し行政の確認を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北広島市高齢者担当者に相談助言頂いています。些細な事でも助言頂き関係性を築いています。	事故報告等の書類提出は直接窓口に出向き事業所の実情を報告し、感染症対策に関する情報はメールや電話で共有している。3回目のワクチン接種についても連携を図り進めている。認定調査訪問時は介護支援専門員が対応するなど、常に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の中外の散歩が自由に行けない中、天気の良い日はテラスを開放し職員見守りの中自由に出て頂き、しっかりと間隔を取りご家族と面会が出来る事もありました。内部研修を行い正しく理解出来るよう取り組みグレーゾーンの事例も参考にしています。	指針を整備し委員会を定期的に開催している。年4回の内部研修では、マニュアルをもとに身体拘束に係る内容の理解や自己チェックリスト表で自身の行動を振り返り話し合うなど、職員の自発的な気付きを促している。グレーゾーンについても確認し、不適切な場面では管理者が注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、徹底した虐待防止に努めています。言葉使いや態度等虐待に繋がる恐れがある場合は、個別面談や朝礼で周知し注意喚起を行いました。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が申請中で、改めて制度について学ぶ機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかりと内容の説明をし、ご家族様の不安や疑問点を解消出来るように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在ご家族様が面会出来ない中、LINEにて日頃の様子を動画で送らせて頂き近況報告をさせて頂いています。返信もあり要望時は管理者・CM・主任にて協議し反映させて頂いています。	面会方法は感染状況に応じて異なるが、現在は中止としている。LINEが可能な家族には、利用者の動画を送信し、電話連絡の際は利用者に代わり声を交わすなど、家族の思いや要望に応じている。ブログ配信に加え、行事で撮影した写真と手紙を添えて、暮らしぶりや近況を報告し、会えてない時間を補っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	季節行事のイベント時は、社長にも出席して頂いていますし、不定期打ではありますが事業所に訪問されたり親睦会に参加され、職員と交流に努めております。管理者は日頃より職員との報連相を大切に、職員の意見を大切にしています。	法人代表の訪問が多く、事業所の実情は管理者と共有している。フロア会議や個人面談で職員は管理者に意見や要望を率直に伝え、個別ケアやレクリエーションの内容等で意見を出し合い、各業務に反映させている。管理者は個々の職員の事情を理解し、働き易い環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課が年に2回あり、面談や日頃の勤務状況や会社実績に応じ、適正に評価しやる気を持って勤務出来るように心掛けています。本人のやる気に応じたスキルアップの手助けも行い、昇格や処遇改善にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修会や外部研修の機会をもうけています。その他スキルアップの希望者には各種資格取得や研修受講を行う様に環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH連絡会にてズームにて、事業所交流会や研修が行われています。その場での意見を参考に運営に反映させて頂いています。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居者様との信頼関係を築き気軽に相談できる関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で家族様の相談に耳を傾け不安や、要望を安心して相談できる関係を築く様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様がその時必要なサービスを見極め、広い視野で検討するように努めています。メンタルクリニックのデイケアに行かれる方もいらっしゃいます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理や掃除を共に行い、出来る範囲での日常生活を大切にしています。入居者様同士で相談し合い洗濯物をたたむ様子も見受けられます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中面会が出来なくなり、タブレット導入によりテレビ電話や、窓越しに内線電話を繋ぎ話をしたり、LINEにて行事や近況を動画にて報告させて頂いています。受診等ご家族対応にて協力して頂き状況把握に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中来訪が困難な中遠方からの面会者については、ガラス越しに面会して頂く事も出来るだけの支援に努めています。	コロナ禍の影響で、訪問や外出の支援が思う様に出来ていないが、LINE登録が可能な家族には画像を送信し、家族に電話をかけ利用者に取り次ぐなど関係継続に努めている。仏壇に毎日、菓子や花を供えたり、郷土料理を楽しむなど、利用者の馴染みの味覚や暮らしの中の習慣を大事に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係を考慮しつつ孤立しないように、個人を尊重し活動の参加を促したり、自席の配置を考えたりし共存できる関係作りに努めています。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍以前は、イベントのお誘いやボランティアの声掛けを行っていました。現在は、スーパーなどでお会いできる機会もあり、近況を伝えあっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望その人らしい暮らしの意向に努めています。困難な場合は、ケアマネを中心に職員間で話し合い、ご本人様の希望に近い代替案を検討させて頂いています。	職員は日常の関わりを大切に、会話が可能な利用者には希望や要望を聞き取っている。困難な場合でも、時間をかけ声掛けすることで反応を読み取り、利用者理解に繋げている。情報は生活記録や申し送り等で共有し、望む暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前以前ご家族様や関係各所様のアセスメント情報を頂き把握に努め、入居後もご家族様と一体となり情報の共有をし把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の過ごし方は個々を尊重し自分らしく過ごして頂いています。定期的なフロア会議にて個々の有する能力について話し合い心身状態の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく暮らせる様に、ご本人様ご家族職員で現状に即した介護計画を立てれる様に努めています。	担当職員は、事前に得た利用者、家族の意向を踏まえて、モニタリングに基づく見直しを行い、職員からの情報を参考に課題を設定している。達成可能なケアプランの原案をフロア会議で話し合い、必要時には主治医の意見も参考に、定期は3～6カ月の見直しをかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を元に日々の気づきや様子を振り返り、職員間で情報の共有をし、介護計画の見直しに役立てる様に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別記録を元にニーズを探りカンファレンスを行いサービス提供に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はすべて出来てはいませんが、コロナ禍の中感染のリスクを避け出来るだけ最小限の訪問受診や理美容等、健康や生活に支障がきたさない様に使わせて頂いています。緊急事態宣言が開けたのち北広島市福祉協議会のお力を借り、ボランティア団体様の来訪を導入していきたいと思っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を大切にし納得がいくようかかりつけ医と情報共有しています。利用中納得がいかない場合は、改めてご本人様やご家族様と適切な医療が受けられる様に支援していきます。	主治医の選択は利用者、家族の意向を尊重しているが、入居時に既往歴に応じた病院選びを進め、納得できる医療に繋げている。専門医等の通院は家族と職員で支援している。週2回の訪問看護師とは情報を共有し、迅速に医療との連携を図っている。	

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回の訪問看護時に特変の報告や身体状況の相談や報告をし指示を仰いでいます。訪問日以外でも特変があった場合等は速やかに相談させて頂き、適切な受診や看護が迅速に受けられる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院時には個別サマリーを作成し情報提供を行い、面会等させて頂き近況の状態の把握に努めて退院時の受け入れが、スムーズに行える様に相談員を通し情報交換をし関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に指針を説明させて頂き家族様の意向を聞かせて頂いています。開設から現在まで1名の看取りを実施させて頂きヤマキ職員一体となり協力した。	入居時に重度化した場合の指針を示し同意を得ている。開設して初めて看取りを経験した際も家族と具体的な話し合いを重ね、医師、看護師、職員が方針を共有し、ワンチームとなり家族の望む終末期支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが定期的な訓練には至ってはいない。施設長や管理者に連絡が入り指示を仰ぎ現在は対応している。今後指示を仰がなくても対応出来る様にスキルをつけて行きたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民に協力を仰ぎ災害時の訓練を計画し実施の段階でコロナでの自粛になり中止になり施設内での訓練になっている。今後自粛が解けたら地域住民に協力を仰ぎ実施して行きたい。	年2回、屋想定火災避難訓練を併設の小規模多機能事業所と合同で自主訓練を実施している。飲・食料品や暖房用品等の非常備蓄品の確保と近隣住民の協力と連携が図られている。	夜間想定火災避難訓練の実施を期待する。最新のハザードマップで当地域がどの程度の災害地区に当たるかを確認し、様々な自然災害を想定した訓練の実施を期待する。自然災害対策マニュアルの作成が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重をし、目上の方々ですのでプライバシーの配慮を心掛けています。	職員は適切なケアのあり方を学んでいる。失禁時は羞恥心に配慮し、誇りを傷つけない言葉かけや対応に努めている。申し送り時は部屋番号を使用し、個人情報管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳を傾け自己決定が出来る様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導ではなく入居者様主導優先なので、希望に耳を傾け希望に寄り添う支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容で身だしなみへの配慮に心掛け、毎日の整容のお手伝いをしています。		

自 己 評	外 部 評	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日のメニューをボードに書いて頂き、食事時間が楽しみになり調理の出来る所を職員と共に行っています。食後の皿拭きやかたづけの手伝いは習慣づいています。月に2回程度外注やホットプレートを使い焼き肉屋ピザを楽しんでいます。	献立は利用者の好みや栄養面を考慮し作成している。日常食から誕生日ケーキ、おせち料理まで手作りの温かさを大切にしながら、月に2回は寿司や弁当などの出前やテイクアウトで外食気分を満喫している。駐車場で焼肉時にはアイスのケータリング車を手配するなど変化を楽しみ、食事形態も工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の栄養バランスは考えて、塩分が多くならない様に塩分計を使用しています。1日の水分量が確保出来る様に個別記録に記載しAM/PMとトータルを計算し個別の状態に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔を保ち誤嚥の危険がない様に配慮しており、個人の能力に応じた介助の心かけています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	18名中17名が日中おトイレで排泄されています。個別の排泄パターンを把握し誘導し安心してトイレで排泄出来る様に心掛けています。	トイレ排泄を基本と考えており、排泄チェック表を活用し、定期誘導、声掛けを行い自立に向けた支援を心がけ、衛生用品の選択も様々な角度から検討し使用している。便秘時も医師に相談し、食事、体操、薬を工夫し快適な排泄支援に努めている。負担軽減に配慮しベット上でのオムツ交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に下剤にばかり頼らずに、起床時に牛乳朝食時に乳酸飲料の提供をしています。以前よりは排便のコントロールが出来ている感じがします。個別訓練で廊下歩行や階段の上り下りをし運動を取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を実施し自立している方は朝に入浴の確認をし、時間帯を相談しています。全介助の方は、朝に入浴の報告をさせて頂き時間になると案内させて頂いています。入浴が楽しめる様に希望者には入浴剤を使用しています。	職員とコミュニケーションが取れる入浴は、利用者の希望に沿って週2回を目安に支援している。柚子湯や入浴剤使用を「本日の温泉」と掲示し関心を引き、毎回お湯を張り替え全員が一番風呂を楽しんでいる。状況に合わせて同性介助、複数介助、シャワー浴、清拭を取り入れ、衛生保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に余暇活動や体操に参加して頂いています。お昼寝の習慣や身体的に体力がない方は臥床を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や疑問は薬剤師に随時質問しています。往診時にもDRIに身体状態に応じた薬の調整等を相談し理解できる様に指導して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等で楽しみ事や昔話を傾聴し、良き時代を思い出しお仲間と談話して頂く。昔していた趣味活動や得意料理等を披露して頂く環境作りを行っている。		

自 己 評	外 部 評	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前外出は、入居者様の意見を取り入れて外食等行っていたが、現在は外出が出来ない中しっかり感染対策をしホーム玄関前の通りを個別で散歩していた。ベランダは自由に入出入りして頂き天気の良い日はお茶を頂いたりベランダ越しにご家族と面会していました。	コロナ禍で事業所としての外出は外来受診のみで、全ての外出行事は中止している。天気の良い日は敷地内の散歩、プランターの水遣り、ベランダでのティータイムで外気浴や気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様はご家族のとのお約束の元小銭程度所持をされている方もおられ、その中で嗜好品の購入を代行にて購入される方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の確認の元ご家族様との電話連絡の仲介をしています。ご家族が来られ手紙を渡される事もあり中継ぎの支援をさせて頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾を皆さんで手作りした物を飾りつけ、心地良い空間作りに配慮し気温調整の管理や清潔な空間作りに努めています。	感染症防止対策の徹底を図り、消毒剤の常備や空気清浄機、加湿器の設置、換気に気を配るなど衛生管理に注力している。更に、対人距離確保のため食卓テーブルを増やし対応している。台所・食堂・居間が一体化した明るく開放感が有る空間で、アイランドキッチンを中心に暮らしの動線に配慮している。季節に応じ利用者与合作の飾りを施し、レク作品や笑顔の写真も掲示され、温かな雰囲気醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍の中人との間隔を取り気分にあった場所で休息出来るように、椅子席やソファを廊下の一角にも配置し、自由に過ごせるように空間の工夫に努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い入れの品物を持参して頂き、居心地の良い様に工夫しています。自宅で飾っていた絵を飾ったり、手作りの小物を持参される方もいらっしゃいます。	居室にはクローゼットが設置され、馴染みの筆筒やベッド、テレビ、仏壇など持ち込まれ、使い易いように配置されている。思い思いにカレンダー、生花、自作品、趣味の人形、大切な家族写真など飾り、利用者の生活歴を彷彿させ、安心に過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が中々覚えられない方の為に目印をつけたリトイレ等共用部も迷わないように文字や絵を利用して張り出し安全安心に移動出来るように努めています。		